

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**162**  
東北森林管理局

**特集**

**技術普及課の業務概要**

「技術普及課」

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

「クロマツ林再生と森林環境教育の取組」・・・[由利森林管理署]

### ■我が署の名所

三大難攻滝の一つ「茶釜の滝」(秋田県鹿角市八幡平)

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・[米代東部森林管理署管内]

三方境から寒江山を望む  
[提供：ひとり登山部]

# 技術普及課の業務概要

## 技術普及課

### はじめに

技術普及課の主要な業務は、①国有林事業における技術の開発及び普及、②森林・林業に関する知識の普及、③森林環境教育の推進、④国民参加の森林づくりの推進、⑤森林総合監理士等の人材育成、⑥森林生態系保護地域での自然再生やモニタリング調査、⑦早池峰山周辺の二ホンジカ生息状況調査、⑧二ホンジカによる森林被害防止のための新技術の導入・実証に関する調査、⑨民間団体と連携した東日本大震災で流失した海岸防災林の再生など、多岐の分野にわたっています。これらの業務の中から4つの業務の概要を紹介します。

### 1 技術開発の推進及び成果の普及

林業の成長産業化に向け、林業コストの削減が重要な課題となっています。東北森林管理局では当該が中心となり、地域特性を踏まえた技術開発目標を定め、この目標を実現するため、6つの技術開発課題(図1)を設定して、当該及び森林技術・支援センター等が試験研究機関と連携して、技術開発に取り組んでいます。

また、実証された成果の普及のため、国有林職員、林業事業者、

図1 平成29年度 東北森林管理局技術開発課題

課題名	開発目標	開発期間	
		自	至
低密度植栽試験	1	H26	H29
ヒバコンテナ苗による低コスト育苗手法の開発	1	H27	H29
多雪寒冷地における大苗植栽の特性について	1	H28	H32
早生樹を使用した施業モデルの構築	1	H28	H32
海岸防災林の機能強化	2	H29	H33
ヒバ天然林施業の調査データ収集と解析	3	H7	H36

#### ※開発目標

- 1 森林・林業の再生に資する造林・保育・生産技術の確立
- 2 公益的機能の高度発揮のための森林施業及び保全・利用技術の確立
- 3 効率的な森林管理及び健全な森林の育成技術の確立

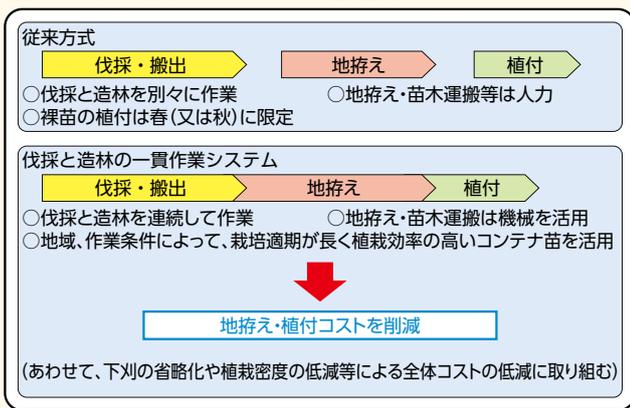
よび森林管理署等の主催により十四回開催しました。今年度も同様に現地検討会の開催に取り組んでいます。これらに加えて、成果の普及や関係者の交流を目的とする森林・林業技術交流発表会を2日間に渡り開催しています。昨年は国有林職員、



(写真1) コンテナ苗(スギ)

県及び市町村林務担当者を対象とする現地検討会を開催しています。平成二十八年度は主に、植栽時期を選ばず容易に植栽可能なコンテナ苗(写真1)を使用して伐採・搬出から植栽までを連続的に行う事により、施業の低コスト化を図る「一貫作業システム」(図2)の現地検討会を当該お

図2 一貫作業システムの仕組み(例)



### 2 森林環境教育の推進

高校や大学などから三十七課題の発表がありました。今年度は一月三十日から三十一日に開催します。関心のある方は是非とも参加願います。

水源かん養、土砂災害の防止などの森林の持つ多面的機能を広く国民の皆様にもPRするため、昭和六十年から「森林の市」を開催しています。

森林の市では、出展者による山菜や木工品等の販売に加え、山の写真展、秋田スギを使用した積み木コーナーや木工クラブなどの体験コーナーを設けるなど、様々な年代の方々に楽しんでいただけるような企画を準備して毎年開催しています。

また、森林とふれあうキックオフを提供する事で、より森林に関心を持つていただくけるよう、秋田市内の小學生を対象にした森林教室(写真2)や林業体験を行っています。併せて、夏休み期間中に親子を対象にした森林教室や



(写真2) 小学生を対象にした森林教室

「山の日記念」森林教室を仁別森林博物館において実施しています。(親子森林教室の詳細は7ページで紹介していますのでご覧下さい。)

各種の森林教室で使用する仁別森林博物館は昭和三十九年に秋田市仁別の国有林(仁別国民の森)に開館し、平成二十年に建物の改修等によるリニューアルを行いました。展示内容は、仁別の森に生息する動植物の紹介、日本三大美林の一つである天然秋田スギの成立経緯や昭和四十年頃まで行われていた森林鉄道による運材の歴史や実際に使用していた機関車の展示など多岐にわたっています。

東北森林管理局は、仁別森林博物館ボランティア案内会及び(株)アサヒビール秋田支社と体験型森林環境教育の実施に関する協定を締結し、博物館周辺の環境整備やボランティア案内会による無料ガイドに協力いただいております。

当課では、協定記載事項の実施、ボランティア案内会への研修及び森林鉄道展などの企画展の実施による展示内容の充実等に取り組んでいます。

### 3 民有林行政支援のための人材育成

民有林行政への支援を行うため、平成二十五年度より各森林管理署に森林技術指導官が配置されています。また、民有林への支援を行う人材の育成を図るため、林業普及指導員資格試験が改正され、新たに「地域森林総合監理」区分を追加し、合格者が森林総合監理士として認定されています。

森林総合監理士は、森林・林業の様々な課題に対応し、森林・林業に関する専門的かつ高度な知識・技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って市町村森林整備計画等の地域の森林づくりの全体像を示すとともに、地域の林業関係者等への技術的支援を的確に実施する事が求められています。

当課では、森林総合監理士として必要な知識・技術のレベルアップを図るため、国有林職員や県職員等を対象とした森林総合監理士育成研修(技術者育成研修・実践研修等)(写真3)を実施し、人材の育成に取り組んでいます。東北森林管理局では、昨年度までに十二名の職員が森林総合監理士に認定されています。

また、林業の現場で活躍できる人材の養成のために秋田県、山形県などが開校した林業大学校等への支援を行うこと

を目的に、県との覚書を締結して、カリキュラムの作成段階から助言を行うとともに、職員の講師派遣や研修のフィードバックとして国有林の提供などによる林業技術者の育成への支援にも取り組んでいます。



(写真3) 実践研修の様子

### 4 東日本大震災からの復興への貢献

東日本大震災の津波により、東北地方の太平洋側の海岸防衛林が流失するなど甚大な被害を受けました。

東北森林管理局では、平成二十三年度より国有林と民有林を一体なものとして、海岸防災林の復旧に取り組んでいます。復旧にあたっては、流失する以前に植栽されていた主要樹種であるクロマツが垂直に深く根を伸ばす性質があり、地下水位が高い場所では、そのまま植栽した場合、健全な成長が難しいと考えられることから、2m〜3m程度の盛り土により植栽箇所を造成するとともに、植栽木を強風等から守るために防風柵等を設置し、これらの設置が完了した箇所からマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ苗木の植栽に取り組んでいます。

また、盛り土造成が完了した箇所の一部については、継続して植栽から保育までの海岸防災林の再生活動を希望するNPO、企業等の民間団体を公募し、森林管理署長と協定を締結した上で、森林整備を行う「社会貢献の森」に取り組んでいます。

この取組により、現在までに延べ五十二団体と約二十三ハクタールの協定を締結しました。

東北森林管理局のホームページでは、来年度に宮城県東松島市浜須賀松国有林において、海岸防災林の再生活動を希望



(写真4) 東松島市浜須賀松国有林の公募箇所

する団体を募集中です。(写真4)  
募集期間は十月三十一日までとなっておりますので、関心のある方は次のURLを参照の上、応募願います。  
[http://www.rinyamaff.go.jp/foroku/sidou/kyoutai/yamotomshi\\_koubou.html](http://www.rinyamaff.go.jp/foroku/sidou/kyoutai/yamotomshi_koubou.html)

### おわりに

当課では管内で分布域を広げている二ホンジカによる森林被害対策の一環として、国有林にモデル地域を設定し、地域の関係者等と連携を図りながらICT(情報通信技術)を活用した捕獲技術方法の実証とその成果の普及に取り組んでいます。紙面の都合上、今回は紹介する事はできませんが、別の機会にあらためて紹介させていただきます。

今回の掲載を機に技術普及課の業務を少しでも知っていただき、多くの方に当課が主催する各種の催しに参加いただけるよう積極的な情報発信に取り組んで参ります。

# 「着任に当たったの所信」

東北森林管理局長 小島 孝文



7月10日付けで東北森林管理局長を拝命した小島孝文です。私は、1987年に入庁し

今年で31年目になります。これまで前橋営林局（現関東森林管理局）、九州森林管理局での勤務経験はありますが、当局管内は初めての勤務になります。林野庁在勤中には、東北各県の民有林、国有林に出張する機会もあり、各県の森林・林業関係者の方々と意見交換もしてきており、森林・林業の現状についてはある程度把握していますが、初めての勤務でありますので、早く自分の目で状況を把握して、職責を果たして行きたいと考えています。

今回の機会に着任に当たったの所信を述べさせていただきます。

まず、現在、我が国の森林・林業に関する最大の課題は、戦後造成してきた人工林が利用期に入ってきたことを踏まえ、路網整備や再造林の低コスト化など資源の循環利用を進める基盤整備を図り、それぞれの地域にあった形で林業の

成長産業化を進め、地方創生に貢献していくことです。管内5県にまたがる当局の国有林面積は165万ヘクタールであり、地域の土地面積の31%、森林面積の44%を占めており、東北5県の林業の成長産業化や地方創生を進める上で大きな役割を果たすことが期待されています。

近年、大型木材加工工場の増加や木質バイオマスの燃料利用の需要が高まるなど、これまでの秋田スギや青森ヒバといった高品質材や広葉樹材だけでなく、いわゆるA材からC材まで需要が多様化してきます。こうした状況の変化も踏まえ、既存の製材工場、合板工場等も含め原木の安定供給体制を構築していくことが課題となっています。

また、管内には世界自然遺産の白神山地をはじめ、八甲田山系から蔵王山系に至る奥羽山脈沿いから、月山、朝日・飯豊連峰にかけて、さらには森吉山、烏海山、北上山地周辺にブナ、ミズナラなどの素晴らしい自然植生があり、これらの貴重な自然については保護林等に指定して保全を図るとともに、自然公園等に指定された森林でのレクリエーション利用の場の提供等を通して地域振興に貢献していくことも重要です。

更に、東日本大震災で大きな被害を受

けた海岸防災林の復旧、岩手・宮城内陸地震被害への対応、岩手県の磐井川地区や山形県の銅山川地区における地すべり工事など国土保全のための治山事業を適切に実施する必要もあります。

このように多くの課題がありますが、当局には先輩方が宮々と築き上げてきた伝統と技術があり、青森県、岩手県、宮城県、秋田県及び山形県の当局と国有林野等所在市町村、森林組合、素材生産業の林業事業者の皆さんと連携を図り、課題にひとつひとつ丁寧に向き合うことで、必ず解決していく方策が見つかると考えています。

我々国有林の職員は、森林の保全から木材生産まで森林・林業に関する専門集団であり、多様化する国有林への役割に応えられるよう人材育成も重要な課題だと考えています。職員の皆さんには、多忙な日常業務だと思いますが、自己研鑽の意識を忘れず、それぞれの能力の向上にも努めて頂きたいと考えています。

国有林は地域に根ざした存在であり、「国民の森林」です。私は、東北森林管理局が地域から信頼と親しみを持たれる組織であるよう、職員とともに全力で取り組んで行きたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

# 美しい森林づくり

## クロマツ林再生と森林環境教育の取組

### 由利森林管理署

由利森林管理署は、秋田県の南西部に位置し子吉川を主要河川とした鳥海山北西地域、由利本荘市及びにかほ市の国有林約23千haを管轄しています。

日本海沿岸のクロマツ海岸林（304ha）は地域社会を守る森林として重要な役割を果たしています。

しかし、昭和58年以降の松くい虫被害及び平成10年の豪雪等により大きな被害があり、その再生を治山事業により実施しています。また、その一部を小学生、高校生やボランティア団体等に植栽・保育の場として提供し森林環境教育に取り組んでいます。

#### ○小学校の森林環境学習



つる切りを体験する小学生

平成17年に由利本荘市教育委員会と締結した「遊々の森（未来につながる森）」において、毎年市立鶴舞小学校の5年生児童を対象に、クロマツ等の植栽、下刈、つる切り作業の体験や植物観察、森林の働きなど森林環境学習を実施しています。昨年は、9月に児童62名が参加してつる切り作業を体験してもらい「木が二酸化炭素を吸収して酸素を出すことを知って驚いた」「慣れるとつるを簡単に切ることが出来た」などの感想文が送られてきました。

#### ○高校生の林業体験



本数調整伐を体験する高校生



自然観察（あがりこ大王）

秋田県立矢島高校における総合学習の一環として「地域の自然にふれあい環境問題を考え合う」というテーマで、森林環境教育を毎年春と秋に学校側の要請により実施しています。5月は、水林国有林において高校生が松くい虫被害森林の再生活動の一部を担うことにより「環境への関心を深め地域へ貢献してもらおう」ことをねらいとして、1年生34名がクロマツ林の本数調整伐作業を体験、「初めてで大変な作業だったが達成感がある」などの感想がありました。

9月には、鳥海自然休養林「中島台地区」において、巨木百選「あがりこ大王」を中心とした異形ブナ林及び鳥海山の火山

活動で形成された国指定天然記念物「鳥海山獅子ヶ鼻湿原植物群落及び新山溶岩流末端崖と湧水群」の自然観察を実施し、地域の自然・森林のすばらしさを体感しています。

#### ○社会貢献の森での育樹活動



慣れない枝打作業の銀行員



作業後の銀行員と家族

秋田銀行では、創業130周年記念事業の一環として、松くい虫被害を受けた水林国有林の再生を目的とした協定を平成21年に当署と締結し、平成21、22年にクロマツを植栽しました。（後に社会貢献の森（あきぎんの森）として協定）

その後、銀行職員とその家族70名程度の参加によりクロマツ林の下刈作業を行っています。本年度は7月に、成長とともに枝が伸び互いを被圧しているため枝打と下刈作業を実施しました。慣れない鋸を使つての枝打作業によりキレイに見通せる林に変わり、「マツが成長しているのを見るのがうれしい」と話していました。当署では毎年クロマツ林の必要性や道具の使い方などを指導し活動をサポートしています。

#### ○森林ボランティア団体等による森林環境活動



クリーンアップに参加した皆さん



本荘海岸林を守る会の下刈作業

林野庁が進める「国民の森林・クリーン活動」の一環として、森林ボランティア団体「本荘海岸林を守る会」、東北森林管理局フォレストボランティア員及び秋田県林業土木協会約30名の協力を得ながら、本荘海岸林における清掃活動を毎年7月に実施しています。海水浴場の周辺箇所もあるため海開きの前に実施することとし、捨てられた空缶やペットボトル等トラックに一杯のゴミを収集・処分しました。

また、「本荘海岸林を守る会」は活動の一環としてクロマツを植栽し、7月の暑い中、毎年下刈作業を実施しています。

今後も、国有林のフィールドを活用した森林環境教育やボランティア活動への支援を通じ、将来を担う子供達や地域の人達に、森林・林業に関する理解を得られるよう取り組んでいきます。



# ニホンジカの分布を糞で把握する —ニホンジカ・カモシカ識別キットの開発—

森林総合研究所東北支所

相川 拓也

## 1 はじめに

近年、日本ではニホンジカ(以下シカ:写真1)が急激に増加しており、これまでほとんど生息が確認されていなかった東北北部でも目撃される機会が増えてきました。シカ侵入初期の地域では、さらなる生息域の拡大や農林業被害の甚大化を防ぐために、あらかじめシカの予防的対策を検討しておくことが重要です。対策を講じる上で、シカの生息域や生息密度を把握することは不可欠です。その調査方法の一つに、シカの糞を利用する方法があります。しかし、シカの糞はカモシカの糞とよく似ており、東北のようにカモシカが多く生息する地域では、両者の糞を正確に区別するのは困難でした。



(左) 写真1 シカ (岩手県釜石市)

(右) 写真2 カモシカ (岩手県盛岡市)

## 2 DNAを利用した糞識別法

そこで私たちのグループでは糞の表面に付着したDNAを利用し、シカとカモシカ両種の糞を簡単、迅速かつ正確に識別できる方法を開発しました。この識別法は以下の3つのステップで完結します。

### (1) 糞からのDNAの抽出

野外に落ちている糞を拾ってきます(写真3)。糞の表面をつまようじの先端で軽くこすり(写真4)、それをDNA抽出用の液が入ったチューブに浸けます。このチューブを約60℃で10分間、その後90℃で5分間保温します。この操作により、糞の表面に付着していた動物のDNAが液体中に溶け出します。



(左) 写真3 野外に落ちている糞

(右) 写真4 糞の表面をつまようじで軽くこする

### (2) シカ・カモシカのDNAを増幅

(1)で得られたDNA抽出液を一滴、シカ用の検査液(i)と

カモシカ用の検査液(ii)の両方にそれぞれ加え(図1上)、このチューブを約60℃で60分間保温します。この処理によって、シカあるいはカモシカのDNAが検査液内で増えていきます。

### (3) 検査液の“色”による判定

結果は検査液の色の変化で判定します。DNAが増えることで液体の色が変化するのです。シカ検査液(i)が緑色に変化していれば、この糞はシカのものだったことを、また、カモシカ検査液(ii)が緑色に変化していれば、この糞はカモシカのものだったことを示しています(図1下)。

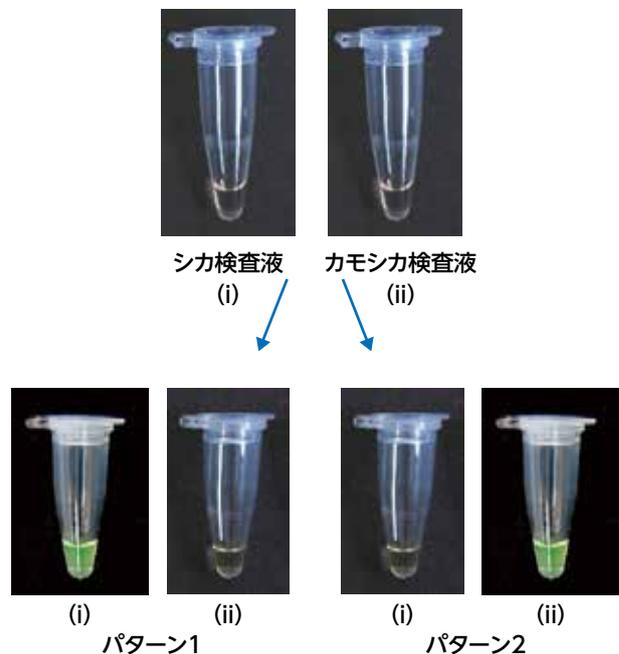


図1 検査液の色による判定結果。パターン1:シカの糞である。パターン2:カモシカの糞である。

## 3 本識別法の特徴

検査液の色の変化で識別できるので、シカなのかカモシカなのか一目瞭然でわかります。また操作も極めて簡単なことから誰でも手軽に検査することができます。本識別法を用いることで、カモシカが多数生息しているシカ分布の最前線地域においても、シカの生息状況を調査できるようになります。本識別法は(株)ニッポンジーンが製品化し、富士通株式会社が運営するe Genome Order (<http://genome.e-mp.jp/>)から“ニホンジカ・カモシカ識別キット”として販売されています。詳しくはe Genome Orderのサイトをご覧ください。



環境美化活動と森林教室

技術普及課



各地からの  
たよりの

7月12日（水）、東北森林管理局では秋田市立  
 中通小学校の4年生の児童43名を対象に、「森林  
 教室」及び木製のプランターに花の苗を植え同校  
 構内と当局庁舎正面に展示を行う「環境美化活動」  
 を実施しました。

この取組は、「森林の働き」について学び、あ  
 わせて植物とのふれあいを通じて児童の豊かな心  
 を育むことを目的として、平成14年度から実施し  
 ているものです。

森林教室では、最初に4種類の葉（ケヤキ、ブ  
 ナ、ヤマザクラ、マサキ）を児童に配り、葉のイ  
 ラストなどが描かれた紙を使用して名前を調べま  
 した。児童は、葉と紙を見比べながら、楽しみな  
 がら、そして時に悩みながら挑戦し、答え合わせ  
 のたびに一喜一憂していました。また、冬になる  
 と葉の色が変わり落葉するもの、1年を通して葉  
 の色が変わらないものがあることを学びました。

森林の働きについては、児童との寸劇を交えな  
 がら木は何に使われているかを考え、森林の水源  
 かん養の働き、土砂くずれ防止の働き、防風林の  
 働き、地球温暖化の防止の働きを学びました。

そして、森林を育てるためには苗木の成長を邪  
 魔している雑草を刈る作業やツルを切る作業の必  
 要性、太くなってきた木を少しずつ切つて、木材  
 として利用しながら残った木の成長を促す作業等  
 についても説明しました。

最後に児童から細い木はどいつだったもの利用  
 されるのか、木の寿命はどれくらいかなどたくさ  
 んの質問があり、児童の木に対する関心の高さが



森林教室の様子



環境美化活動の様子

楽しませてくれることと思います。  
 森林教室や環境美化活動をきっかけに、児童た  
 ちが木や自然に対する興味をもち、人や環境につ  
 いて考えるようになってくれることと思います。

分かりました。  
 森林教室のあ  
 とは、屋外に移  
 動して木製プラ  
 ンター42個にマ  
 リーゴールドや  
 ブルーサルビア  
 など6種類の花  
 の苗を植えまし  
 た。土の入った  
 プランターは大  
 人でも持ち運ぶ  
 のが大変な重さ  
 でしたが、児童  
 が2人ペアにな  
 り校内だけでな  
 く局庁舎まで一  
 生懸命運んで展  
 示してくれまし  
 た。

これらのプラ  
 ンターはこれか  
 ら秋までの間、  
 赤色、黄色、青  
 色などの花たち  
 によって風景に  
 彩りを与え、見  
 る人の目と心を

「仁別の森林（もり）で遊ぼう！」  
 夏休み親子森林教室」を開催

技術普及課

7月28日（金）、親子で森林について学び、森  
 林にふれあい、森林を体験する機会としていた  
 ために、仁別森林博物館ボランティア案内人  
 会（以下「案内人会」とも）に、夏休み親子森林教  
 室を秋田市の仁別国民の森にある仁別森林博物  
 館で行いました。

今年は、8組16名の保護者と子供たちに参加  
 いただき、案内人6名、秋田森林管理署職員4名と  
 技術普及課職員6名のスタッフと一緒に、身近に  
 森林を感じながら1日を過ごしました。

バスで東北森林管理局を出発した時には、雨が  
 降るあいにくの天気でしたが、博物館に到着する  
 とその後、雨が止み曇りとなって、天気が持ち直  
 しました。

開会式の後、参加者たちは4つの班に分かれて、  
 案内人の説明を受けながら博物館を見学し、森  
 林、天然秋田スギや森林鉄道などについて学習し  
 たり、仁別の森林に住む生き物達の剥製を熱心に  
 観察したりしました。特に、参加者は展示してい  
 る森林鉄道の機関車に乗り込んだり、森林鉄道の  
 歴史に興味を持っているようでした。また、ワー  
 クシートを使用した森林体験学習を博物館見学し  
 ながら行いました。学習内容は、木の種類により  
 木の重さが異なることや香りが違うことを感じたり、  
 年輪を数えて木の年齢を調べたりするなど、  
 見るだけでなく五感を使った体験をしてもらいま  
 した。



案内人の説明を聞きながらの博物館見学

博物館で学  
 んだ後は、博  
 物館周辺の散  
 策路で約1時  
 間の自然観察  
 の自然観察を  
 行いました。  
 樹木見本園で  
 は、根でも呼  
 吸をしている  
 ラクウシヨウ  
 を見学して説



案内人の説明を聞きながらの自然観察

午後か  
 らは木工  
 製作と木  
 の葉の標  
 本作製体  
 験を行いま  
 した。

木工製作  
 では、慣  
 れない釘  
 打ちに苦  
 勞しながらも、親子  
 で協力して秋田県産杉材の小物入れを組み立てま  
 した。木の葉の標本作製は、かん木園や樹木見本  
 園で採取した葉をラミネート加工して作製しまし  
 た。子供たちは、様々な木の葉を使って、魅力的  
 なデザインの本を作製していました。



木の葉の標本作製体験の様子

参加者  
 からは、  
 「秋田県  
 の自然は  
 とても豊  
 かなの  
 で、大変  
 良い体験  
 をするこ  
 とができ  
 ました。」  
 「子供と  
 一緒に森  
 林や自然を体験しながら、楽しく学ぶことができ  
 ました。」との声が聞かれ、森林の中で学びなが  
 ら自然とふれあつたことの楽しさを実感していただ  
 けたようでした。今後より多くの方に仁別国民  
 の森や仁別森林博物館を訪れていただき、仁別の  
 森林の中で森の恵みを感じていただけるよう取り  
 組んでいきます。

# タキタロウは幻か？ —大鳥池の生態系—

津軽白神森林生態系保全センター 専門官 有本 実

本誌今年度5月号『我が署の名所』で紹介された、山形県は朝日山地の大鳥池。伝説の巨大魚・タキタロウの生息地として有名ですが、タキタロウは実在する！と本気で狙う釣り馬鹿が世の中にはいるもので、かくいう私もその一人です。

8月中旬に大鳥池をルアーで攻めると、30cm前後のイワナがコンスタントに釣れました①。池に流れ込む中ノ沢も餌釣りで調べたところ、下流から3つ目の滝までイワナが生息していました②。池のイワナは頭が小さく丸みを帯びた体型ですが、餌の豊富な池で急速に成長したのでしょうか。一方沢のイワナは、強い流れに適応するために発達した大きな尾ビレが目を引きまます。恐らく①のタイプが将来のタキタロウ候補でしょう…『タキタロウ=突然変異で巨大化したイワナ』だと私は妄想していますが、いかがでしょうか？

大鳥小屋の親父さんによると、イワナの餌として池にアブラハヤ③を放流しているとの事。ところが晩の肴用にキープした池のイワナをさばいてみる

と、胃の中から青い翅がごっそり出てきて驚きました。池の周辺にはオオゴマシジミ④が沢山飛んでいて、イワナはアブラハヤの他に、水面に落ちたこのチョウをたらふく捕食していたのです。他にもコガネムシ類やコエゾゼミ⑤など、昆虫類が多く食べられていました。

タキタロウが巨体を維持するためには、小さな魚や昆虫よりも大きなイワナを捕食した方が効率的です。大鳥池の生態系ピラミッドの底辺は水中のプランクトンや水辺の植物で、次の階層がそれらを食べるアブラハヤや昆虫類、さらに次の階層がそれらを捕食するイワナ、そしてイワナを襲うタキタロウこそが頂点に君臨しているに違いありません。

タキタロウを狙うのであれば、禁漁間近の9月下旬、産卵のために遡上する（であろう）東沢⑥の流れ込み付近で、イワナに似せた大きなミノーを使ってみてはどうでしょうか？ 吉報お待ちしております。



①大鳥池のイワナ



②中ノ沢のイワナ



③アブラハヤ



④オオゴマシジミ



⑤コエゾゼミ



⑥東沢（産卵場所？）



# 森林官からの手紙



## 岩泉ってどこにあるの？

三陸北部森林管理署 釜津田森林事務所 森林官補  
(9月1日付農林水産省出向)

佐久間 彬



檀取湿原

「今はどこに住んでるの?」「岩手県の岩泉って町」「あ、あの金色堂とかがある...」「それは平泉」。これが私の現在勤務している森林事務所を県外の人に説明する際のお決まりのやりとりにです。

そんな勤務先の釜津田森林事務所は岩手県の中央やや右よりに位置している岩泉町の南西部、北上山系に位置している国有林を約9千haが管轄となります。管内には約2千haのカラマツ人工林と、6千5百haのブナを主体とした天然林、そして奥地にありがちな国有林施業地のさらに奥に位置する5百haの岩手短角牛の放牧地があります。最奥部に位置する「檀取湿原」は牛の放牧により作り出された美しい景観が有名で、特にミズバショウが咲くGW周辺は多くの人が散策に訪れています。

このような岩泉町、昨年8月30日に東北では初めて太平洋側より上陸した台風10号により甚大な被害を受け、林道のみならず国道や町道などの生活道路までもが甚大な被害を受けました。現在では、ほとんどの道路が通行可能となったものの、河川に堆積した砂利の排出や、片側交互通行状態となっている道路の復旧、被害を受けた建物の再建など、台風からおおよそ1年が経過した現在も復旧作業が続けられております。幸いにも釜津田森林事務所の管轄する地域は大きな被害もなく、過去からこの森林を育て守ってきた方々に感謝する次第です。



台風後の町内



カラマツ林内の広葉樹

一方、この地域は針葉樹人工林を対象とした林業が古くから行われていたわけではなく、どちらかと言えば天然に生育している広葉樹を伐採して林業を営んでいました。そのため、針葉樹人工林が増えてきている現在でも広葉樹に対する思い入れも強く、数年前より町全体でも広葉樹を中心に林業を盛り上げていこうとしております。現在、釜津田森林事務所はカラマツの生産が主となっておりますが、町と併せて今後は国有林でも、人工林内に生育する広葉樹等についても目を向けて行ければと思います。



白雲の滝



茶釜の滝



泊滝

## 我が署の名所

三大難攻滝の一つ「茶釜の滝」

(秋田県鹿角市八幡平)

米代東部森林管理署管内

当署管内は、一部が十和田八幡平国立公園に含まれており、観光名所等も多くありますが、今回は国立公園の近隣にある「茶釜(ちやがま)の滝」をご紹介します。

「茶釜の滝」は、日本の滝百選に選ばれており、米代川の支流である夜明島川の上流部に位置する夜明島溪谷の最上流部に懸かる滝で、百選の中では奈良県の「双門の滝」、愛媛県の「御来光の滝」と並んで滝までのアプローチが難しい「三大難攻滝」の一つとも言われる秘境の滝です。

滝までは、山ルートと沢(川)ルートがあり、いずれのルートも車両での最終地点から片道約2〜3時間かかります。山ルートは八幡平の麓にある大場谷地(駐車場あり)から高低差約400mを登って下る山越えコースとなりますが、途中からは沢を下らなければいけない箇所もあり、見どころもほとんどありません。

一方、沢(川)ルートは夜明島林道終点付近から夜明島溪谷を登るため、高低差は少ないものの、鎖場やはしごなど危険箇所も多くあり、途中には「泊滝」や「白雲の滝」など多くの滝を見ることが出来ます。

また、登山等に自信のある方々が多数でトライする場合は、車両を反対側にも用意して、山ルートから沢(川)ルート、逆に沢(川)ルートから山ルートにチャレンジしてみてもいかがでしょうか。

どのコースを選択して楽しむにしても、かなり難所がありますので、登山の準備を万全にして複数で入山することはもちろんのことですが、当日の天候や水かさの状況により判断されるようお願いいたします。

併せて、付近ではツキノワグマの目撃情報も寄せられておりますので、鈴の携行などクマ対策も忘れずにご利用いたします。



### ◎交通アクセス

「茶釜の滝」入り口「夜明け島林道終点」まで  
 東北自動車道「八幡平IC」から車で約27km(約1時間)  
 JR花輪線「八幡平駅」から車で約24km(約1時間)